

発展練習問題 18-3

<解答>

問 1

I 売上高		(1,820,000)	
II 変動売上原価		(882,000)	Ⓐ
変動製造マージン		(938,000)	
III 変動販売費		(70,000)	
限界利益		(868,000)	
IV 固定費			
1. 固定製造原価	(181,200)		Ⓑ
2. 固定販売費	(100,000)		
3. 固定一般管理費	(240,000)	(521,200)	
営業利益		(346,800)	

問 2

7,000 円の貸方差異

【解説】

直接原価計算方式で損益計算書を作成させる問題だが、資料の与え方が基本練習問題と異なっている。様々な資料の中から場面ごとに適切な資料を選び出して計算できるかどうかポイントになる。なお、生産データは実際には解答では必要としないダミーデータである。特に変動売上原価と、固定製造原価の 2 箇所は注意したい。

問 1

(1) 売上高

販売データより当期の製品販売数量は 1,400 個であり、販売単価は 1,300 円であるから、 $1,300 \times 1,400 = 1,820,000$ 円である。

(2) 変動売上原価

変動製造原価は資料 2 の「変動費」に記載されている直接材料費、直接労務費及び製造間接費の合計であるから 630 円/個である。売上原価の計算なので、販売データの当期販売 1,400 個を使う点に注意が必要である。したがって、変動売上原価は

$630 \times 1,400 = 882,000$ 円である。

(3) 変動販売費

変動販売費は当期販売量に対して発生するから、 $50 \times 1,400 = 70,000$ 円である。

(4) 固定製造原価

直接原価計算の固定製造原価は期間原価であり、当期の実際発生額を記入する。したがって、資料で与えられた原価発生額をそのまま記入すればよい。

問 2

製造間接費を予定配賦した場合、変動売上原価のうち、製造間接費の部分は予定配賦額が計上される。ここで、問 2 の問題文と、資料 1 より製品 A の販売数量が 1,400 個であるから、製造間接費の予定配賦額は次のように計算できる。

$$281,200 \div 1,520 \times 1,400 = 259,000 \text{ 円}$$

一方で、製造間接費の実際発生額は次のように計算できる。

$$180 \times 1,400 = 252,000 \text{ 円}$$

したがって、両者の差額 ($259,000 - 252,000 = 7,000$ 円) が原価差異となり、実際発生額 < 予定配賦額だから貸方 (有利) 差異となる。